



『奇跡の背番号1』（8月30日）を振り返って・・・

2003年秋。大分県立三重高校野球部は、まとまりを欠いていた。試合に勝てない。目標も持てない。意見が衝突する日々。しかし、そんな時、彼らの目に飛び込んできたのは、壁を相手に白球を投げるある選手の姿だった。

一「広田のために守りたい。」脳梗塞の後遺症でキャッチボールもできないが、それでも一人厳しいリハビリを続け、孤独な練習に打ち込む彼の姿が、チームメイトの心を動かした。そして、彼は最後の夏季大会で「先発投手」に指名され、エースナンバー「背番号1」を背負い、マウンドに立つ。

彼が投げた「奇跡の7球」から、私たちは「本当のエースとはどんな存在か」について考えました。

〈みんなの感想より〉

●私が思うエースとはみんなに尊敬される努力を途中で諦めない人だと思います。今までエースといつてもまとめられる人としか思いませんでした。しかしこのビデオを見て、まとめられる人がエースになれるのではなく、本当に頑張っている人しかなれないんだなと思いました。私も人から尊敬される人になりたいです。（女子）

●本当のエースは目標を持っている人や目標をあきらめない人だと思います。リハビリをしながらも目標にむかってがんばるのがすごいと思いました。僕もそんな人になりたいです。（男子）

●監督もすごいと思った。監督には広田くんのパワーや根性が見えたのだと思う。広田くんには野球を愛し続け夢を叶え、仲間の心を変える力があると思う。あきらめないこと、奇跡を信じることは自分次第。だから自分で夢を勝ち取り病気に打ち勝つ広田さんを尊敬します。夢を叶えるパワーを自分でつくり、夢に向かいたいと思う。（女子）

●ぼくは広田選手のようにはなれないと思うけど、自分なりにできることをやっていきたいし、もうすぐある体育大会や合唱コンクールとかでも頑張ってみんなと協力して、成し遂げていきたいと思いました。また、広田選手のことを他の選手がカバーしていたので、協力することも大切だと思いました。僕も協力することを大切にしていきたいです。（男子）

●エースというのは、どんな人かとすると「責任感が強い」「信頼されている」のようなことが思い浮かびます。しかし、本当に大切なのは、周りの人の心を動かせる人だと思います。どんな人でも、周りの心を動かすことはできると考えます。それは、何か特別な能力があるかではなく、自分のなかに強い意志があり、それをつらぬける人だと思います。だからどんな人でもエースになるのだと思います。私が目指すのは「みんながリーダーになれるクラス」です！（女子）

●このクラスのエースは、全員の意見を聞くことができる人だと思います。たとえば、話し合いのときに自分の意見を押し通そうとして誰の話も聞かない人よりも、他の人の意見もきいて、より良い案を出そうとする人のほうが、「エース」にふさわしいと思います。（男子）

●私は「奇跡の背番号1」の授業で、エースは人一倍努力してあきらめない心を持っている人だなと思いました。ではクラスではどんな人がエースと言えるだろうと考えました。クラスでは皆の意見をまとめることができたり信用されていたりしなければ、つとまらないと考えました。また、今日は広田選手のように自分が困難にあっても、好きなものに立ち向かっていきたいと思いました。（女子）